

お医者様でも

草津の湯でも アドツコイシヨ

恋いの病は コウリヤ

活りやせぬよ チヨイナ チヨイナ

霊 浴 降 病 魔

群馬県 草津温泉

桐島屋旅館 尻焼き風呂入浴記念

平成 年 月 日

病氣治癒と温泉療法 尻焼き風呂と冥想 RUN

古代より、最も恐れられていたのが病氣であり、一般庶民には薬など縁遠く、入手することすら容易ではなかった。「出雲国風土記」意宇郡忌部の神戸の条には『御沐（ミソギ）の忌里である忌部を流れる川のほとりに温泉があり、出湯のあるところは、海と陸の景勝の地である。男も女も老いも若きも道路につらなり、あるいは海中の洲に沿って集まり市が立ったように大勢の人が入り乱れ酒宴をしている。一度温泉で洗えば容姿が立派になり、ふたたび湯につかれれば、「万の病、悉（コトゴト）に除（イ）ゆ」と昔から今に至るまで、効験が無いということはない。だから世間では、神の湯といっている。』と記されている。この神の湯は現在の玉造温泉である。

また、「伊予国風土記逸文」、「伊豆国風土記逸文」にも大己貴命と少彦名命がわが秋津島の人民が若死にするのをあわれに思い、はじめて禁薬（医療）と温泉の術を定めた。

温泉の近くに住む者はその効能に浴したが、他の国に住む病人は神世に天から流れてきた水沼だという池の蓮根を食べて病気の回復を待つ他はなかった。

このように、「風土記」（成立 719 年）に書かれているように、古代から温泉の効能が述べられており、又、「上野国風土記逸文」にも日本武尊が東国征伐のおり、怪我をして上毛国我妻にて湯に入り傷と患いを癒す。」とあります。

余談ですが：上記の風土記逸文をもって日本武尊が草津温泉を発見したという希望的伝承が作られるのです。（頼朝の草津温泉発見説も宣伝用の史実ではない話です。）

もう少し脱線すると、先に記載した「大己貴命」とは天照大神の事なのですが、古事記などではこれをオオクニヌシノミコトと意図的にすり替えています。オオクニヌシとは意宇国主という事です。これも後の世に大国主と大層な字にかえてしまいます。出雲大社は、社になる前は意宇国主命が幽閉された幽閉所です。（出雲大社ではオオクニヌシノミコトが横を（西）向いている理由です。向かいの御客座の五神は監視役ではないかと。）

神社としたときには天照大神を祀るべきだったのです。

または、オウクニの父親で出雲を守ったスサノウノミコトか意宇国主を監視に来ていたホヒノミコトを祀るべきでしょう。（意宇国主もすぐに祀られたわけではありませんが。）

☆（記紀の作り話はこのように作りだされてきました。意宇国主は葦原醜男アシハラシコオと云われた人で、尊称は無いのです。⇒「身逃神事」、「爪剥祭（ツマムギサイ）」として密かに伝えられています。）：少彦名命の話も意図的に捏造しています。

話をもどします。

古代の人にならった素直な温泉の利用法、捉え方が現代はますます必要です。

現代は精神的ストレスが溜まり神経が弱り、肉体上に変化がおこる、病気になる環境があまりにも多すぎます。（病気になった後の薬害も重大な問題です。）

近年は、本当に神経関係の疾患が多くなっているのです。

現代病と云っていいでしょう。

上手な温泉利用は現代病にはとても向いている方法ですし、少しずつ冥想を覚えていけば治癒効果がさらに期待できます。

冥想のお話をしますと、冥想は 3,000 年も前から日本のご先祖様達が行ってきた事で、精神を統一して心を落ち着かせるための最上の方法なので病も治療しています。

「日抱きの神事」として伝承されてきました。

これによって日本人の心穏やかで優しい精神文化が生まれ、世界で一番精神性が進んだ民族となっていた訳です。

時代が下り、2,500 年ほど前にお釈迦様も最後の最高の修行方法は冥想だと悟ったといいますが、それよりはるか昔から日抱きの神事をしていた日本の先人には感嘆と尊敬、そして感謝です。

自身とご家族の健康と平和の為に温泉旅行目的には湯治をするという心もお持ちくださると深みのある温泉旅行になることでしょう。大人の旅です。

長年、温泉と人との関係、健康とは、と考えてきました事の一部を記しました。

せっかくなら良い温泉を上手に利用しましょう。

“尻焼き風呂と冥想RUNをお勧めする所以です。”

桐島屋旅館にある「霊浴降病魔」の意味も分かってきます。

尻焼き風呂（特許取得）、瞑想RUN（発明）

草津温泉 桐島屋旅館館主 中澤芳章 Ph.D.

統合医療医学博士、チェルノブイリ被曝医療奉仕団メンバー

中央アジア研究所顧問 <http://uyghurjapan.org/jp/>

電話 0279-88-2871 gary@kusatsu-spa.com